

後援会事業実施報告書

佐々木 啓

歴史・考古学メジャー（歴史・文化遺産コース）では、毎年メジャー（コース）の構成員（学生・院生・教員）で、地域の史跡など文化遺産や展示施設を見学する一日バスハイクを行っている。このバスハイクは、学生相互の親睦を深めることはもちろん、地元の文化財保全に対する学生の自覚や責任感の向上に資する、重要な機会となっている。

本年度は、6月2日（日）に茨城県古河市周辺の史跡・展示施設の視察を行った。当日参加したのは歴史・考古学メジャー教員8名と、院生12名、4年生3名、3年生23名、2年生29名、合計75名であった。学生たちは、それぞれの文化財や史跡について事前に調査・研究し、解説文を作成して、パンフレットにまとめた。

当日は、午前8時10分に大学生協前に集合し、点呼をとった後、2台の大型バスに分乗して、古河方面に向かった。10時過ぎに古河市に入ってから、古河歴史博物館を見学する班と、鷹見泉石記念館、古河文学館を見学する班とに分かれて、それぞれの見学を行った。古河歴史博物館、古河文学館では、それぞれ職員の方に解説をしていただいた。鷹見泉石を中心とする地域の重要な知識人・文化人の業績に触れるとともに、昭和戦前期の蓄音機で音楽を聴かせていただくなど、貴重な体験をすることができた。

古河の城下町を散策し、昼食をとった後は、再びバスに乗車して古河総合公園へ向かった。同公園では、高橋修先生の解説を聞きつつ、古河公方館跡を見学し、中世の人々の生活や世界観に触れることができた。

その後16時にバスに乗車して帰路に就き、18時前に大学に帰着。まとめの会合を開いた後、解散となった。

当日は晴れ間のない曇天であったものの、最後まで雨に降られることもなく、充実した史跡見学を行うことができた。バスの借り上げにご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、心よりお礼申し上げます。

参加者

教員：田中裕、高橋修、添田仁、佐々木啓、澁谷浩一、山田桂子、森下嘉之、中田潤

学生：2年29人 3年23人 4年3人 院生11人 研究生1人

